



紫雲

特集 迎接の藤

紫染まる一面。藤の命の輝きが極まる時間帯は定められない。一日のうちに光が刻一刻と藤の表情を変えていく。紫の雲は仰ぎ見る人を常に魅了してやまない。

紫の房がちらりと見える。少々離れた場所からでも視界に入る藤棚。迫の池から道を隔てた高台にその大樹は在る。高鳴る鼓動を抑える間もなく、足早に境内の坂をのぼる。やがて紫の層が大手をひろげて迎えてくれた――「迎接の藤」。柵の中央にひと株、苔むした幹から四方に枝が伸び、無数の房を垂らしている。炭鉞の時代から、この町で最も親しまれ、最も多くの人が愛でてきた藤波。ものの美しさを表現する「紅紫」という言葉は、まさにこの光景だと錯覚する。人は真に感動したとき、言葉を失ってしまうことを実感する瞬間。非日常へと誘う大藤の姿は、現実を超えて幻の世界にすら近い。その景色は、吉兆といわれる「紫雲」を連想させるかのように幻想的だ。



● 金田駅から北東にまっすぐ徒歩20分
● 田川―直方バイパス風呂ヶ谷交差点から金田駅方面に約700m